

出題のねらい 〔総合型選抜〕

中村学園大学〔栄養科学部 フード・マネジメント学科〕

【論述試験】

〈出題のねらい〉

栄養科学部フード・マネジメント学科は、理系科目の食品科学・栄養科学の知識を基礎として、食ビジネスに貢献できる人材養成を主目的とする文理融合型の学科である。

総合型選抜の論述試験では、提示された「食と環境」に関する文章および図表が示す情報を正しく理解し、それらの情報を、フード・マネジメント学科での学びに必要な「食を取り巻く環境への興味関心・課題意識」と結び付けて自身の考えを展開し、且つ、その内容を体系的に適切な表現を用いて記述する出題方式とした。

出題は、生産から消費までの段階で生じる温室効果ガスに関する内容で、近年国内外で頻繁に取り上げられている食肉と環境保全の関係、また、地産地消や食品ロス削減への取り組みなどによる環境配慮などを文章および図で示して各設問に対応するかたちとした。

問1は、提示した文章の指定箇所が、新聞をはじめとするメディアで頻繁に使われている環境問題関連用語（「食品ロスの削減」や「地産地消の実践」等）を説明していることを正しく理解できているかを問うもので、ここでの理解は続く設問に対する記述を制限字数内で簡潔にまとめることに寄与する。

問2は、提示した「日本人の食に関連するカーボンフットプリント及び物的消費量の割合」と「1日1人当たりの肉類（牛・羊肉）摂取量の国際比較」の2つの図から読み取れることを記述するものである。肉類の生産から消費までの段階で生じる温室効果ガスは他の食品による温室効果ガスに比べて割合が高いこと、また日本における一人当たりの肉類消費量は他国に比べて少ないこと等、図からは提示した文章を補足する情報が読み取れ、ここでの回答は問2でさらに求められる「文章と図を参考にした、日本の食と環境についての考え」を展開する基盤となる。

上記の読み取りに続いて回答者による「日本の食と環境についての考え」の記述を求め、提供された情報を正しく理解した上で、平素からの「食を取り巻く環境への興味関心・課題意識」と結び付いた考察となっているか、以下の視点から評価した。

文章読解力：問題文が正しく読み取られていることが回答の内容から伺えるか

数学的リテラシー：図中のデータが正しく読み取られて回答に反映されているか

論理的思考力：回答全体が理論的に構成されているか

文章・表現力：誤字脱字がなく正しい日本語で回答者の考えなどが適切に表現されているか

独自性：一般的な環境保全対策案などにとどまらず、独自の発想によって読み手の興味を惹く内容があるか